

## 平成27年度第2回古賀市文化芸術審議会議事

日時：平成27年10月13日（火）9時30分～11時30分

場所：市役所第1庁舎4階第3委員会室

出席：審議委員 中山副会長、加藤委員、河村委員、古賀委員、坂崎委員、志賀委員、古川委員、結城委員、米倉委員

事務局 吉村教育部長、安部生涯学習推進課長、西村文化・スポーツ支援係長、田中主事、力丸サンフレアこが館長、村山歴史資料館館長、金子歴史資料館係長

配布資料

レジュメ、平成26年度文化芸術事業報告書、平成28年文化芸術事業企画書（案）、古賀市寄付・寄贈に係る事務取扱基準指針（案）、文化芸術関連事業のアクションプラン分布図

（司会：西村文化・スポーツ支援係長）

1 開会のことば（吉村教育部長）

2 報告（以下、進行は審議会副会長）

（1）平成26年度文化芸術関連事業の実施報告について（説明：田中主事）  
未報告事業が多数あるので、本課が行っている事業のみ報告。

P 7 公共施設美術品展示

1ヶ月半ごとに作品を入れ替え、糟屋美術展、MOA 子ども美術展、古賀市子ども美術展等、近隣で開催された美術展で受賞した古賀市民の作品を展示。

P 15 童謡まつり

3歳～90歳までの1,260人が出演し、日本の童謡を歌ったり、独唱コンクールを行った。背景は古賀竟成館高等学校の美術部が作成。出演者を含め、5,346人が来館。

P 16 サロンコンサート

4月と8月を除く毎月1回、リーパスプラザで行う1時間30分のコンサート。出演者は市民を中心としており、総合の来場者は1,092人。季節ごとにテーマを変え、2団体程度出演してもらっている。

P 17 こども美術展

市内各小中学校から作品を募集し、優秀な作品においては展示、表彰する。サンフレアこがにて3日間展示しており、1,268人が来場。

P 19 アート・バス

小学生は中学校区ごと、中学生は各中学校ごとに参加者を募り、希望する児童生徒をバスに乗せ、美術館へ連れて行く。合計5回実施し、72名の参加者があった。九州産業大学の学生がボランティアとして参加。

中山副会長 ただいまの報告について、なにかご質問等あれば。

古賀委員 7ページの公共施設美術品展示について、課題として盗難防止策について触れられていますが、26年度はキャプション用消耗品費しかとられていませんし、28年度予算では額装代としての消耗品費しかとられていません。実際のところ、どれだけの額が盗難防止として当てられるのか教えていただいても良いですか。しっかり対策をしようとしたら、それなりに金額がかかるかと思いますが、どんな対策を考えていますか。

- 事務局 盗難防止策の費用項目は消耗品費で対応したいと考えています。ただ、具体的にどのようにするかまでは、いろいろな方にお話を伺いつつ、検討中です。
- 古賀委員 まだこれから対策を講じるということですね。ほぼ常時、展示されているようですし、盗られたり、傷つけられたりしたら困りますよね。紫外線もそうですけど、早急に対策をお願いしたいと思います。
- 中山副会長 私も同意見です。階段上がってすぐにありますし、陽もかなりきついんじゃないかなと心配になっておりました。これからってことですね。これについて他に何かありますか。ないようですね。すみません、私から一つ良いですか。司会をしている身で申し訳ありません。17ページのこども美術展についてです。目的がすごくすばらしいと思います。特に子どもの文化芸術に対する感性を育み、子どもの視点を取り入れた文化芸術振興を図るという部分ですが、私たちも子どもたちと接していますが、子どもの視点を取り入れるというのはなかなか難しく、どのようにして子どもたちの視点を取り入れているのか教えていただけますか。
- 事務局 今現在、具体的に子どもの視点をどのように取り入れているかと聞かれると、お答えできる回答がありません。以前の審議会で、子どもたちが選ぶ「大賞」があったらというご意見がありましたが、そういった形で今後取り入れていけたらと検討中です。
- 中山副会長 そうですね。子どもたちが作品を見て、感想を交流しあえる場所があったらいいなと思います。ありがとうございました。他にご質問は。
- 古賀委員 こども美術展やサロンコンサートなど、外出促進事業とコラボされているとのことで、これは、高齢者の方が外出されて、介護が必要な状態に陥らないように文化イベントとリンクさせて促進している事業だと思うんですが、とってもユニークで良いなと感じております。他の自治体であまり聞いたことがないので、どのようにされているか教えていただいても良いですか。
- 事務局 介護支援課の事業で市内在住の60歳以上の方が参加できるもので、指定されたイベントに行くとスタンプカードにシールを貼ってもらえます。そのシールを数枚集めると、抽選で景品がもらえるようになっています。
- 古賀委員 抽選になるということは結構たくさんの方が参加しているということですね。
- 中山副会長 他に何かありますか。また、思いついたらご意見ください。では、企画書について、事務局からご説明をお願いします。
- 事務局 平成28年度の企画書（案）をご覧ください。27年度を踏襲した形になっています。反省点や課題などいろいろ出てきておりますので、これらを反映した形で作っていきたいと思います。ただいま予算編成時期でございますので、これ以外にもこういったものはどうかなどのご意見等があれば、お教えいただければと思います。詳細についての説明は省かせていただきます。よろしくおねがいします。
- 中山副会長 質問、ご意見ございますか。新しいもの等はありますか。
- 事務局 新しいものはありませんが、27年度に実施しておりませんでしたプロムナードコンサートを形を変えて実施したいと考えております。それと、お伝えし忘れておりました、カラーで印刷しております分布図についてご説明します。以前、どの事業が行われているか図にさせていただけるとわかりやすいとのご意見をいただきましたので、それを踏まえて作成いたしました。平成26年度の報告書に基づいて、アクションプランのどこに該当するかを落とし込んでいますので、あわせてご参考にしていただければと思います。
- 中山副会長 それぞれを分類してわかりやすくしてくださったというわけですね。
- 古賀委員 先ほどのご報告の資料を見ても、ものすごく多岐に渡るものが多いんだなと改めて思いました。分布図を見ると、充実している部分と薄い部分とはっきり見える。計画期間つ

て10年ですか。そうすると、すでに前期半分くらいはいつていますよね。将来的な目星をつけながら進めていかなければならないと思います。28年度には分布の薄いところをどうするか考えていかなければならないと思います。眠った宝を起こすや、ざわめきづくりなどはどう見ても薄いですよ。従来どおりのものを踏襲するという形で良いのか疑問に思うところです。薄いところをどう埋めていくかという発想が必要なんじゃないかなと思います。

事務局 それについては私どもも同様に考えておりました。環境づくりのところにレッツトライプロジェクトという事業があります。本事業は継続して続けている事業であります。来年度あたりに新しい魅力を興すの中のざわめきづくりにも入ってくるのではないかと考えています。なかなか人材育成が主の目的になりますので、時間がかかります。新しい魅力を興す、個性をおこすというのは同じように時間がかかるということをここ数年取り組んでみて思いました。眠った宝を起こすというのは、現状のものを起こして活用するという大切なことですので、こちらとしても何かないかと探している最中です。

古賀委員 これと趣旨が良く似た事業というのは、人材育成が叫ばれている時代なので、いろいろなところで行われています。福岡市でいえば文化芸術振興財団というところがアートマネジメントセミナーに関する人材育成をされていますし、九大もソーシャルアートラボで人材育成セミナーをされています。どちらも地域の魅力をおこしていくということに力をいれつつ、人材養成をされています。福岡市の財団は、今年度は企画を作っていくことに力をいれていて、7回の講座を行っています。福岡ならではの企画とお題が出されていて、その企画を作って行けるように講座を組むという流れを作られています。九大のほうは詳細は記憶していませんが、1回目から八女のほうに合宿するという、地域密着の形で、現地に行って人材養成の講座をされている。レッツトライプロジェクトの中で養成される人材の目標の設定の仕方であるとか、講座の組み方、企画の目標をこちらで設定して企画を作ってもらいもありなのかなと思いました。

事務局 今年度のレッツトライプロジェクトがすでに2回終了しており、近日に3回目がある予定ですが、ハードに3回で企画を作って助成金に申請してもらおうことになっています。古賀市を盛り上げるということをテーマに設定していて、挙がっている企画の具体例としては、薬王寺温泉街の鬼王荘さんを使ってサロンコンサートの出張版をそこでしょうという企画があります。歴史が好きな別の参加者の方とコラボして、午前中は歴史深い箇所をバスツアー形式で回って、午後からランチをかねてコンサートをする。他にも、名物づくりとして旅館の朝活の一環として水辺公園でヨガしてみたり、朝ごはんは古代飯というものを試してみたらいいんじゃないかという企画も挙がっています。今年度の企画はどれも具体化しそうなものが多いです。行政としては、先ほど上がったざわめきづくりなどの項目は薄いのですが、団体や個人が行う事業としては少しずつ行われてきているのかなという印象です。

古賀委員 それはすごくいい傾向だと思います。全て行政がやる必要がないことですから、団体や市民の方の活動も合わせて市全体でいい方向に向かえばいいなと思います。若干関連してですが、企画書の下備考欄に計画のどの欄に該当するか書いてあるんですが、これは行政が行うものがほとんどになっているかと思いますが、計画としては全て行政が行うわけではなく、企業や団体、市民の方々と一緒にやっていくことに重点を置いていたと思います。民間や団体、市民の後押しを行政がいかにかやっていくのかというのを意識しながらやる事業がレッツトライプロジェクト以外にもあれば、薄い部分が埋まっていくのではないかなと思いますので、そこも合わせてご検討いただければと思います。

中山副会長 坂崎さんとかどうですか。

坂崎委員 レッツトライプロジェクトについては、3回で助成金の申請までしようとする回数少なすぎる。スムーズにいけば一番いいんですけど、人材育成でやるんだったらもうちょっと回数を増やしてくださいと話していたのですが、やっぱり3回なのかという印象です。今来られているメンバーを見ても、今までやっていたことを引き続きやってくださいというわけではなくて、新しいメンバーが集まっているので今までやってない新しいことを生み出しましょうという結構負荷のかかることをやっているの、3回は厳しいなと思います。1回目リサーチに行き、2回目会合して、わかったことなんですけど、みんな困ってるぞという印象でした。結構負荷がかかっていると思うし、講師料とかだけで出来るんじゃないかと思うので、そんなに費用もかさむわけじゃないので、もうちょっと回数を増やしてもらえたらと思います。また、話すついでで申し訳ないですが、計画を最初作ったときに、近隣の自治体と共同で何かやれないかとかあったと思うんです。けど、ここ見る限りではなさそうだし、予算とか事業の規模とかでまとめて話すと、すごくいろんなことがあって、やっていることはいいことなんですけど、少しスリム化することが必要だと思います。リストラクションして、この事業はそのままで良いのかとかこれと一緒に出来るんじゃないかとか、あつていいのかなと思います。予算的にも厳しいのは良くわかるので、他の市町村と協力して、隣の新宮や宗像市や福津市とやりましょうとか。たとえば、先ほど会場がないとかいう問題が挙がっていましたが、よそで出来ることはよそでやってみても良いと思うし、他のところが困っていたらここで引き受けるという形があつてもいいと思います。計画にせつかく挙がっているので新しいものやっていたら良いと思います。数やれば良いということでもないの、精査していきながらやれるといいと思います。先ほど古賀さんがおっしゃっていたように、前期の半分くらいきていると思うので、もう少し計画的にやれたらいいなと思います。ちなみに、読書の事業がいっぱいあつて、先日新聞に載ったり、学校でもちらっと話題になっていますが、小中学校の図書館を開放するという事業をやりますと教育委員会から出て、学校のほうでも独自のやり方でかまわないと言われていたと聞いています。そういう事業とここに出てきている読書活動促進事業などどうまくつないでやるとかいう工夫が要るんじゃないかなと思います。他にも引つ付けてやれるものはあると思いますが、縦割りの弊害で、別々にやっているということもこれを見ただけでもわかると思います。

中山副会長 各委員さんのご意見をお伺いしたいと思います。まず、加藤委員からお願いします。

加藤委員 市民ホールでの展示ですが、実は歴史は20数年あります。当初は、ネーミングを一点美術館として、私が始めました。それが市長が変わって政治的な思惑の中で、その名称が消えました。元の名称に戻せというわけではありませんが、もっとわかりやすいネーミングでしたほうが、広報のときに新聞も扱ってくれるし、わかりやすいと思います。また、展示についてですが、当初から光の関係は検討しています。北側になりますかね、大きな窓ガラスがあるところにピンクのカーテンをかけたらどうかなど、芸術家も含めて話し合った計画がありますので、また個別に教えます。そのほかには、来年度の予算の中で、アート・バスについてですが、以前から言っていた大人のアート・バスが入っているので、期待しています。以上です。

河村委員 今までの話の中で私が関心があつたのは、企画案の8ページのこども美術展のこどもの視点についてです。以前、大学の保育科の学生に、教育原理、保育原理について教えたことがありました。講義の中で、モンテソーリというイタリアの女性の医師で、幼児教育に携わった方がいまして、非常にこどもの特性というのを医者立場から科学的に客観的に観察して、理論を導き出したという方です。古賀市にもモンテソーリの幼稚

園があります。具体的にこどもの視点については、掘り下げていないようでお答えはありませんでしたが、この点に関しては、幼児教育の専門家や古川先生のように学校現場でこどもたちを教えていらっしゃる方から、具体的にご意見を伺ったり、調べたら、具体的なことが明らかになって、どうしたらいいかがわかってくるかと思います。なぜ、幼児教育が大事かと思ったかという、こどものころから美術や芸術、文化に対するやわらかい掘り起しが出来ていることによって、大人になって芽が残っていて、いつか役に立つ。大事なのはこどもの時期なんですね。モンテストーリーは、こどもの時には我を忘れて対象に専念する集中力がある。名前を呼ばれても気づかないくらい自分のやっていることに集中する。その集中力というのをすごく言っている。教育の大切な要素として、幼児教育の中に取り込んでいるというのがモンテストーリーなんです。こどもの視点というのは意味が大きいんじゃないかと思います。こどもの視点がわかったら、こどもの世界がわかるということなんですね。そういうアプローチをしたら、将来大きな花が咲くかもしれない。専門家の方から話を伺って、こどもの視点を取り入れる文化がどういふものなのか調べられたらいいと思いました。

中山副会長 ありがとうございます。とても貴重なご意見だなと思いました。こどもの視点といってもなかなか私たちも勉強不足だなと思いました。専門家の方にもお話を聞いて、いろいろ調べられたらいいのかなと思います。米倉委員、いいですか。

米倉委員 こんな分厚い資料が送られてきて、うわーと思いました。それだけたくさんの方が行われているんだと感心しました。古賀市のみなさんが明るく元気になっているということはとても良いことだと思います。取り組みについて、私も見てみましたが、内容についてこれもあれも必要なんだなと思いました。生涯学習という内容が幅広く、全部が連携しないとやっていけないんじゃないかなと思いました。職員さんは大変苦労してあるんじゃないかなと思います。苦労話とかしていただいたら、こちらもどんなことしたらいいかわかるので、お願いします。また、先ほど加藤さんがお話された一点美術館について、いつも前を通るたびに思うんですが、今日通ってきましたら、半切の条幅の漢字の作品が飾ってありました。作品は立派ですね。半切の軸がぼんと下げられて、下のマットがしわしわの台の上に乗せられていて、美術展としてはさびしい感じが見受けられました。前も知り合いの作品を飾らせてもらったときに思ったんですが、作品をよく見せるのには周りの雰囲気も大切だと思います。ロビーでよく見せようとするならば、何か一角がほしいなと思います。予算をかけてでも、あの場所はみんなも行く場所だし、何かきちんとしていただけたらと思います。

中山副会長 ありがとうございます。特にみんなが身近に作品に接することが出来る場所だからですね。

米倉委員 景観のほうになるかもしれませんが、絵をいっぱい描いているところがありますよね。一番最初に描かれていた中川の高架下をくぐっているところは、絵が見えないようなところもあるし、みすぼらしくなっているのですが、そこはどうにかならないのですか。絵を描きなおすなど、近くに住んでいるので気になりました。

中山副会長 私の住んでいるところの近くにもあります。だんだん色が落ちてきています。その辺はどうですか

事務局 壁を所管する課がそれぞれ違いますので、どこが管理するのはこちらも悩んでいるところです。色があせてるよ、などのご意見はたびたび伺いますし、こちらとしてもどうにかしていきたいという思いはありますが、今のところはっきりと申し上げられない感じです。

坂崎委員 僕もそれはお話したいと思っていました。前からいろいろなところに相談していたし、

問い合わせたりしていました。高架下もダメージがひどいですが、僕が一番ひどいと思うのはグリーンパークの芝生広場の壁だと思います。4年ぐらい前から、どうにかならないですかねとお話していました。アートウォールを実施した市長もカムバックされて、政治的な面でもいいタイミングかなと思います。そもそも、アートウォールを始めるときに相談を受けたんですが、描くのは良いですがメンテナンスが大変ですよと言っていたんですが、そこがクリアされないままじゃんじゃん描かれていってしまっていたので、あとあと大変だろうなと思っていましたが、やはり今、グリーンパークのところなんかは見るに耐えない状況になってしまっています。たとえば、古賀市文化芸術振興計画のロゴをPRもかねて描くとかどうかなとお話したりしています。前にも提案させてもらっていましたが、小中学生に描かせるのはいいんですけど、そればかりが良いわけではないと思います。たしかにお金はかかりませんが。文字的なグラフィックの記号であれば、いろいろな人が描けるのでお金もかからないと思います。僕は全部写真をとっていますが、ここはきれいですねとかないですよ。絶対にメンテナンスが必要だと思います。

- 中山副会長   メンテナンスしていくにしてもお金が伴うからですね。そこらへんが大丈夫ですかね。見るに耐えない状況にあるとのことで、どうかしていただきたいですが。
- 坂崎委員   市長が都市景観のことに興味を持って取り組まれていて、都市景観条例みたいなものも近いうちに作ればとおっしゃっていたので、その点ではやりやすいのかなと思います。他にも、企業と協力して取り組んでいるアダプトプログラムというのがあると聞きましたが、近隣の住民だけでなく企業と資金面の協力なども無謀ではないのかなと思います。
- 中山副会長   そこらへんのお答えはいかがですか。
- 事務局   わたしたちでできる範囲でどういったことができるのか検討して、早い段階で方向性を出していけたらと思います。
- 中山副会長   よろしく願います。先ほど、米倉委員さんが苦労話をお聞かせくださいとおっしゃっていましたが、何かありますか。
- 事務局   今回、レッツトライプロジェクトで、初めての試みとして企業さんを巻き込めないかと商工政策課との連携を想定して動いてみたのですが、企業も利潤を第一としているので、ただ協力するだけというのは難しいとのご意見もあり、当たり前のことだとわかっているのですが文化芸術で企業に利益を生む難しさに大きな壁を感じました。
- 中山副会長   この件に関して、何か委員さんの中で出来ることがあるという方はよろしく願います。すごいですね。そうやって何か新しい試みに挑戦するというのは。また、何かありましたら、ここでもどんどん出していきたいと思います。では、次、結城委員さんいいですか。
- 結城委員   老人クラブさんだったり行政区の細かい公民館での文化祭ですが、取り組みがなされているようです。なかなか足を運べていないので、グループを作ってでもそういう情報が入れば行って、若い方でもお年寄りの方でも、そこから人材作りやつながり作りが出来るんじゃないかと思います。また、先ほど商工政策課の話が出てきましたが、私たちも協賛の関係で工業団地のほうにお願いに伺ったんですが、文化芸術で私たちは何も儲けとらん、と言われて悔しかったです。中央公民館のころからいろいろなイベントを文化協会ではさせていただいて、あるとき、古賀の名産物を並べてみようということで、トビオさんにご協力していただいて、数品置いていただいたことがあります。本当は私としては、古賀にはいっぱい食品加工の工場や企業があるのに、また、文化のイベントにはせつかくたくさんの方が、童謡まつりでは5,000人以上の方がお集まりいただくのに、そこに古賀の宝になる食品加工物が何も並べられないというのが今まで残念でし

た。しかし、これから公民館も少しずつ変わってくるということで期待しています。それで、十五日会の会長さんとの会話だったんですが、これから文化のイベントの時には、食品加工品やお土産になるものを、とお話しました。今度行う市民音楽祭には、市内だけでなく県外からもお客さんが来られます。さて帰ろうとしたときに、古賀のお土産買いたいけど何かありますかと聞かれたときにすごく困りますね。古賀のサービスエリアや博多で買ってくださいとしか言えないです。古賀の新しい魅力、ざわめきづくりで取り組んでいただけたらと思います。

中山副会長 ありがとうございます。特に童謡まつりの3歳から90歳まで参加されているということで本当にすばらしいですね。夏休みにされている事業についてもお話していただいてもいいですか。

結城委員 夏休みこども体験教室ですね。公募型補助金で3年間補助金いただくということで、2年目になります。27講座、最初は28講座予定しておりましたが、先生のご都合で1講座減りました。645名くらいのお子さんが参加して、文化協会でない講師の先生もいらっしゃいましたが、文化協会の方も講師として、こどもたちが伝統文化に、たとえば、茶道や詩吟、生花などにふれる機会になりました。もちろん、ダンスや、私はパン作りの講師をしました。なかなか学校の現場では先生方もお忙しいでしょうし、そういった学校離れての経験をすることが大切です。お母さんたちも夏休みに長い期間ちょっとでも楽しめたらと勧めてあると思いますが、こどもたちの元気な顔や様子を見たら私たちが元気をいただきました。でも、私たちが思ったのは、ちゃんとそこでこどもたちを寝なきやいけないうことです。行儀作法もそうですが、日本の文化を伝えるためには、もちろんごあいさつをすることや、してはいけないことを私たち社会人がこういう場できちんと伝えていくことが必要だと感じました。

中山副会長 西洋文化に触れる機会は結構ありますが、なかなか伝統文化にこどもたちが触れるという機会が少なくなっていますので、すごく貴重な活動をされているなどと思いました。

古川委員 こども美術展について、報告書に書いてある課題の中学校部門について受賞がなかったというところは、中学校教諭として非常に申し訳ない気持ちでいっぱいです。中文連などの作品作りに時間がかかり、こういった大きな展覧会に出す指導が十分に行き渡っていないというのが現状としてあります。顧問としてはそういったところをしっかりと指導していきたいです。先ほどもお話がありましたが、展示してある作品をこどもたちがお互いに褒めあうようなこと、授業では付箋に書いて友達プリントに貼ってあげるといことをします。そういうことの延長でもいいと思います。もうちょっとしっかりお互い褒めあうようなことをすると、こどもたちも喜ぶし、次の意欲にもつながるかなと思います。こどもの視点を取り入れるという面では、そういったことをしたら面白いのかなど。書道や絵画などいろいろな種類のものが展示されていますので、学校がきっかけを作って展示されている場所に足を運ぶように繋げていけたらと思います。それだけじゃなくて、学校もチラシを配ったりするだけでなく、担任の先生から連絡やお知らせをするなど、徹底しなきやいけないうと思いました。

中山副会長 ありがとうございます。なかなか学校現場も忙しいですからね。美術の授業時間について、教えていただいてもよろしいですか。

古川委員 週に1回です。2~3年生は1年間に35時間。1年生は45時間です。それも、行事とかが重なると全てその時間が取れない場合もあります。年間を通して作れる作品数も私たちがこどもの頃に比べると少ないです。

中山副会長 ありがとうございます。そうですね。私たちがこどもの頃は続きで2時間くらいあった気がします。学校でもカリキュラムが決まっているでしょうが、出来るだけ美術の時

間を減らさないでくださいと学校に圧力をかけたほうがいいのかなんて思ったりしますが、ここで志賀委員さんがお忙しい中、駆けつけてくださいました。ありがとうございます。全体に対してでもいいです。来ていきなりご意見といわれてもお困りになるとは思いますが、みなさんにご意見いただいていますので、よろしいですか。

志賀委員 レッツトライ、大きく掲げられておりますが、レッツトライだけでなく、人材育成の場というのは、一番身近に筵内女性学級というものがあります。30名あまりの女性が所属しております。市と区の助成をうけて、毎月活動しております。フォークダンス部が生まれたり、ダンス部が生まれたり、3つくらい団体が生まれて子株で活動しております。学級長は当番で誰でもなれて、企画から実行からバリバリやられて、そういったところで人材育成としてすごく実を結んでいるなど感じています。先日、男女共同参画の日本女性会議に出席してきました。小山田の方とご一緒に、まず一番その方が、行きがけの電車の中で筵内女性学級のことを知ってとっても感動しておられました。自分たちも女性学級を作りたいとまでおっしゃっていました。そういった風に地域でそれぞれ生まれれば、自然と人材育成がなされていくなど実感いたしました。

中山副会長 みなさん、貴重なご意見ありがとうございました。ご意見の中で、これだけの事業があって繋げていくとか、連携していくとかそういうことが大切なのかなと出てきておりますが、その辺は、坂崎委員さんから精査していく等のご意見も出ておりましたが、どうですか。繋げること、連携の大切さが言われている中で、何かありますか。お知らせとかもみんなが知らないことがあったりして、そのへんどう思われますか。

志賀委員 情報の共有化に関しては、文化協会としてもいつも申し出ておまして、例えば夏休みのこどもの体験教室について、エコけんもやってるし、行政もやっているし、私どももやっています。すべてを一枚の紙にまとめて載せたら、親御さんはその一枚を見てこどもにどれに体験させようかと一目でわかるようにしたいと呼びかけをしたんですが。行政の方は、目的が違いますといろいろ言い訳がおありのようでした。少しの印刷費を私どもに補助していただければ、それが可能なんです。時期的にもまとめて掲載して出せば、あちらの小さい字を見てこちらの小さい字を見てとしなくても、一枚の紙に共有できればと、コツコツではありますが、文化協会のほうでも進めさせていただいています。

坂崎委員 先ほど言ったことと繋がるかもしれませんが、新しい生涯学習センター(仮称)が出来たら、そういう機能も、つまり事業を運営したりする機能もつけましようという計画になっていたかと思うんですよね。どういうふうな事業計画でやるかという全体像が見えることもあって、プラットホームといていたように、短期的なもの、長期的なものをちゃんと計画立ててやっていく。ここを見てもわかるように、すごいダブってる事業があるんですよね。文化関係の事業を力入れようとするれば一番に挙がるのはおそらく予算のことだと思います。これからどんどん増える見込みがあるならいいと思うし、バリエーションも出ていますが、たぶん逆だと思います。出来るだけ予算を削っていく、工夫をやっていく必要があるかなと思います。前にも一度申し上げたし、いろいろなところで言っていますが、アマチュアリズムといいますか、もちろん子どもたちや市民の方の絵を展示したり、発表したりするのはいい機会だし、必要だと思いますが、アート・バスでやっているように、もっとグレードの高いものを見て学ぶ機会というのが少ないのかなという印象です。アウトプットとして、発表できます、みなさんに見てもらえることが出来るといいことだと思いますが、学ぶ機会というのは必要だと思いますし、そういうグレードの高いものは負荷のかかるものではあります、人も育っていくし、事業と運営スキルのあがっていくというのはセットだと思っています。まだ、形には表れていませんが、どこかで作っていききたいなと思っています。子どもたちにはアート・

バスという形で超一流なものも見せる機会を作っていますし、市全体で、別に美術館に行かなくても、市内でも年に1回でも見れる機会がつかれたらいいなと思うところです。

中山副会長 ありがとうございます。アート・バスも何年になりますか。

事務局 5年です。

中山副会長 5年ですか。アート・バスに参加して、超一流を見たこどもたちの延べ人数はすごい数になるでしょうね。未来の文化の担い手にこどもたちがなっていくということも書かれています。よりよい鑑賞者になっていくという意味もありますね。

志賀委員 ご質問よろしいでしょうか。参加したこどもたちの反響はどうなんでしょうか。

坂崎委員 年齢差があるので、一概に言えないとは思いますが、最近だと親子で実施したのはすごく評価が高かったのかなという印象です。一度お話したかもしれませんが、僕が古賀市で展覧会をしたときに、驚くほど古賀市の人に来ていないということがありました。そういう状況であるということですね。こども達にどんくらい美術館に行ったことがあるかアンケートをとっても、全然行ったことがないということもこども達がものすごく多いですね。その子達にとってはすごくインパクトがある出来事じゃないかなと思います。しかしこれが、先週い絵を見に行ったから、来週図画工作ですさまじくいい絵を描けるかとかそういうことには繋がっていないので、すごく時間がかかることだとは思いますが、それは積み重ねていくことで達成できたらいいなと思います。ただ、僕らがやっているのは年に1回くらいだけしか行けないので、市だけでやるわけじゃなくて、それぞれの家庭でも行ってほしいし、育成会、公民館活動など、そういった機会が別の形で作られて、もっとこども達が行く機会が増えればいいなと思います。中学生にもなれば、自力でいけないこともないですが、もちろん、美術館に行ったことがない子は美術館に行きたいなんて思わないからですね。まずは一回行ってみるというのは非常に貴重だと思いますし、回数を増やす工夫も必要かなと思います。

中山副会長 ありがとうございます。こども達に美術展のお知らせっていくんですか。

古川委員 美術館からポスターやチラシが送られてくるので、美術室とか掲示板に貼ったりしています。アート・バスに参加したこども達の反響という面では、美術の授業の中で作家の作品を見たときに、実際に見た子達はえらく勝ち誇った顔で、ああ見た見た、知っとう、という反応を見せます。すごく記憶に残ってて、あれが楽しかったとか耳にします。行ったことがない人は、価値を知らないとか硬そうなイメージがあるようです。実際に行ってみると、意外と楽しかったとかいう意見も多いし、そういう話はよく聞きます。

中山副会長 ありがとうございます。親御さんにお知らせする機会も小学生とかにもあればいいですけどね。そういうチラシが配られるまではされてないんですよね。そういうのがあれば、こどもたちが行ける美術館一覧表なんかありませんかね。

古賀委員 他市になりますが、いろいろなところで行われているこども対象の事業に横串をさすような課があるんです。そこが情報を集約して配ったりしています。それぞれの主管課で目的は違うと思いますが、こどもという面で集約したら出来ると思います。これはどこがやるのかというのがありますが、ぜひ実現していただきたい。

結城委員 古賀市の中学校全体で美術館にというイベントはないんですか。

古川委員 ないですね。

結城委員 私の夫は福岡市で教師をしていましたが、福岡市は行っていたようです。

坂崎委員 この前、小学生の絵画の審査をさせていただく機会がありまして、たくさん見させていただいたんですが、小学生の画力に強く危機感を感じました。まじめな話、授業数が圧倒的に少ない。これは2年生ぐらいの作品かなと思ったら6年生の作品だったりして、でも、昔に比べて授業実数が半分くらいなので、経験値も半分になるのかなと。おそら

く道具の使い方もよくわかっていないんですよ。見てる限りは、他の授業頑張ってる勉強できるようになっていけばそれでいいですけど。僕らがこどもの頃は、あいつ勉強苦手だけど絵はすごいと言われる子がいて、それがその子のアイデンティティになる場面がたくさんあったように思います。今そういう子たちが輝けるといふか、頑張れる場面がほとんどないと思うとすごく残念。絵を描くというのは上手下手以前に、もっと機会に触れていい時間を過ごすことが大事で、学校で出来なければ別のチャンネルでやればいだけだと思えます。例えばここで言うと、青少年育成課でアート教室をやられていますが、こどもの作品を発表する機会を設けていますし、私が携わったこどもの絵の展覧会もありますし、描いてきた作品をただ出せばいいというわけじゃなく、描く前の段階から教えることが必要。先ほどの一流のやつを見ようという話とつながりますが、学ぶ機会もあって、そのアウトプットとして展覧会に出すとかセットになれば良いなど。ただ漠然と夏休みだから描いてこい、はいコンクールに出しますというよりは、トレーニングの機会も作らないといけないのかなと。かといって学校に一コマ増やせというのはカリキュラム的に無理な話なので、別のチャンネルでそういうものが作れて、こどもたちの育成の場になれば良いなと思えます。公民館などでこどもの絵が飾られているのを見ますが、それは選ばれた作品であって、選ばれてない応募状態のやつをみると愕然とします。それはどうにか出来たら良いなと思えます。

中山副会長 ありがとうございます。スポーツを一生懸命しているのは見ますが、文化系でこどもたちが輝ける場がたくさんあればと思えますが。学校でやっていければいいんですけど、いろいろなところで、それこそ連携してそういう機会を作っていけるようよろしく願います。

河村委員 たまたま先日 NHK の全国放送で高校生の創作ダンスの大会がやっていたんですね。ものすごくレベルが高くてびっくりしました。あの表現力と、スポーツと芸術が融合したような素晴らしい映像を画面で見ることが出来ました。古賀市内でもそういう高校や中学で創作ダンス部はあるんですかね。

古川委員 中学校にはないですけど、ただ、体育の授業でダンスはあります。

河村委員 私が思ったのは、中学や高校でそういうクラブがあるんだったら、1年間訓練された成果をここにある事業の中のどこかに、いわば体を動かして生み出す美、身体的な美を発表する機会もいれられたらいいなと。高等学校の生徒たちの創作ダンスに感動しました。こんなこと知らなかったなと。すごい新鮮な力としてこれから育っていくんじゃないかと。古賀はないんですね。これは本当に新しい分野だし、伸びる分野だという気がしました。

結城委員 今年度は11月21日～23日の3日間ありまして、21日の午前が市民の部として、古賀中学校のダンスをやっているこどもたちが発表します。高校はいろいろなところで活躍されている古賀競成館高校のチアダンスチームがありますので、披露してください。私も一応ダンスを教えていますので、こどもたちとダンスをしますし、古賀文化協会ではヒップホップやクラシックバレエもしております。古賀の学校でも、ダンスの授業が入ったときに、先生たちがまだご指導が出来ないとのことだったので、入らせていただいたことがありました。保護者の前や生徒さんの前で披露したようです。

## (2) 文化芸術作品寄贈に関する内規について

前回の審議会で叩き台として提出したものを訂正し配布（訂正部分は別紙資料に赤文字で表示）※別紙参照

- 中山副会長 作品を収納する場所としては、旧給食センターというお話が出ていましたが。  
事務局 旧給食センターに置いている作品については、井上玲子さんのアルミの作品のみで、絵画の作品については、リーパスプラザのステージ上の投影室に収蔵しております。
- 中山副会長 わかりました。ありがとうございます。  
坂崎委員 寄贈したとか寄付したいという件数はどれくらいありますか。  
事務局 ここ4年間で70点以上の寄贈をいただいております。昨年度からしても6点以上申し出をいただいております、コンスタントに作品の受け入れを行っています。指針等がありませんので、お断りすることも出来ない状況です。  
事務局 さきほどに付け加えさせていただきます。近隣市町村に聞き込みしたところ、寄贈の指針等を設けているところはまずありませんでした。また、寄贈自体もほとんどないと。なぜか古賀市にたくさん集まっている状況にあると聞き及んでおります。
- 中山副会長 なぜでしょうね。作品作られる方が多いということなんですかね。この指針をもとに、寄贈があった場合は考えられるということですね。4年間に70点って多いですね。  
古賀委員 過去のも合わせて何点くらい寄贈作品があるかわかりますか。  
事務局 調査してみないとわかりませんが、古賀市内に飾っている作品のほとんどが寄贈作品です。そう考えると100点以上は確実にあります。台帳も作っております、ただいまHPでも見れるように電子化を進めております。
- 中山副会長 これだけの作品数があるなら、ちゃんとした場所がほしいですね。保存場所として。他に指針に関して何かある方はいらっしゃいませんか。よろしいですね。まだちょっと時間がありますので、振り返りということでみなさまに一言ずつご意見いただきたいと思っております。今日は緒方会長がいらっしゃらなかったもので、拙い司会進行で申し訳ありません。では、今度は米倉委員からいいですか。  
米倉委員 私自身書道をしていて、美術館とかに飾ったり、受付したりいろんな活動をするんですが、いろんな人が見に来てくれて、いろんな人と話す機会があります。そのときに楽しそうにいろんな話題が話せるということは、自分自身の元気にもつながっているんで、とにかくいろんな場所にいろんな居場所があれば、誰かがどこかに行く。文化協会に頑張ってください、私もいけるときは行くけど、行けないときはまた別の場所と。それぞれが自由な場所で楽しんでいける生涯学習であってほしいと思います。とにかく難しく考えずに、明るく元気で、笑顔で子どもたちにも伝わるように生活していく。私は最終的には食に行き着くんじゃないかなと思っています。いろんなイベントにプラス食をすれば、いい生き方が出来るんじゃないかなと思います。事務局よろしくお願ひします。
- 結城委員 こういう取り組みは、子どもとお年寄りが多いんですが、もっと若い世代、仕事など忙しいとは思いますが、どうかしてもっと取り込めないかなと考えています。地域のイベントは満席で、立ち見でした。みんな元気なんですよね。一緒に歌って踊って。こういうのをもうちょっと広い環境でさせてあげたいなと思いました。次のざわめき作りとして、若い人たちを手伝えるようなことを考えていけたらと思います。
- 古川委員 いろいろな事業をされている中で、私は中学校に関わっている部分しかわからないことが多くて、難しい話だなと聞かせていただいております。最後に先ほど作品の収蔵庫に給食センターを使われているということで、3～4年ほど前に打ちの生徒が忍び込んで指導した経緯がありまして、中学生は多感なので、ちょっと不安だなと思うところもあります。うちの学校は大部分が運動部に所属しております、土日の活動が難しい部分もありますが、学校が生徒と文化芸術や町がしていることとつながないと気づくことも気づけないのかなと思います。
- 坂崎委員 僕は最近学校のこととか地域コミュニティのこととかすることが多くて、そこにも関わ

ってくるんですが、中学生の期末テストって九教科あって、音楽とか家庭科とか美術とか技術とかあるんですね。日ごろ五教科で、何で音楽とか美術とか勉強しなくちゃいけないんだって子どもたちが言って、その答えで中学生が一番腑に落ちたところは、そういうことまったく学ばないし、家に音楽もなくて、映画も見なくて、美術もなかったら、すごく貧しい感じがするだろうなと思うし、大人になってそういうことに興味が湧いたとき、どういうルートで勉強するかわかるためにも今のうちに勉強しといたほうが良いんじゃないのって話をしました。そういうことってもうちょっと子どもたちに伝える機会があったほうが良いなって思いました。学校のカリキュラムってもちろんすごい充実してるし、いいところがあるんですが、そういうものがどんな風に大事かっていうのを伝えるのは、学校の授業だけでは難しく、その子たちのふれる地域コミュニティだったり、地元だったりで何か経験することで、それらがいいと思える、大事だと思えるように出来たらいいと思います。審議会に出させていただいてこういう話をさせていただいて、そういうシーンを作るべきことがここに濃縮されているので、すごく頑張ってるやらなきゃなと思います。最近、新宮や福津に商業や開発においていかれて、古賀市何もないじゃんって言われるし紹介したりしますが、とはいえ、学校現場に関わっていて思うのが、学校がよければすごく住環境としては価値が高いものになるし、そういうところで五教科だけじゃない、まあ出来るに越したことはないんですが、もうちょっと文化的なところとか古賀市の学校はいいよねと周りから評価してもらえるような機会をもっと作っていけるように思っているところです。最近しゃべりにくいと言われることがあります、そんなことはありませんので、なんでも謙虚に聞いてるつもりですので、いつでもご意見、アドバイスいただければと思っております。今後ともよろしくお願ひします。

中山副会長 ありがとうございます。しゃべりにくいと感じたことは一度もありませんよ。では、加藤委員よろしいですか。

加藤委員 先ほどの寄贈に関してですが、絵画の寄贈申請等が出たときに、何らかの鑑定が必要になるかと思ひます。そういう点で、いろんな美術館の学芸員と常時交流を持てば、かつて、県立美術館から高島野十郎のろうそくも借りられましたし、フランス領事館からも借りられました。そういう意味で、美術館の学芸員や館長、あるいは、領事館や大使館といろんな付き合いをもたれたら、自分の勉強にもなると思ひますし、いろんな意味で自分の感性もつきますので、自分自身で鑑定ができるようになります。私のときは深くお付き合いしていましたが、今は切れているような気がします。まだ、古賀には古賀春江の水彩画があるとか、いろんなものがありますから、所有者とコンタクトをとって、各美術館とお付き合いされたらいいかなと。図書館の入り口の左側に松木路地、200号ですかね、美術年鑑で言えばあの絵は時価6000万円ですね。少なくとも美術年鑑の1冊くらいは予算で買ってほしい。

中山副会長 ありがとうございます。河村委員よろしいですか。

河村委員 社会人で現役世代の人々がなかなか芸術に触れる機会が少ないので、何とかならないかと思ひます。私が考えなくてもいいことかもしれないですが、いつも委員会などのときに考えるのは、国家の財政的なものことです。日本の国がものすごく国債を乱発して、収入に対して無理な予算立ててやっている。2020年もすぐそこですが、文化芸術行政も含めて、あらゆる行政が音を立てて崩壊するかもしれない時期が迫ってくるような気がするんです。文化芸術の活動のことに直接結び付けて考えれば、若者の半数以上が非正規の雇用となると、毎日の経済生活を支えていくことが精一杯で、それ以外のことが考えられないような、かつての20～30年より前よりもっともっと厳しい状況にあ

るということです。これがいつもいろんなことを考えるときに心の悩みの種です。人々の中にそういう人間的なものをゆっくり触れる余裕がなくなっていることが大きな社会的な背景としてあるのかなと思います。文化芸術の予算も、よほどのことがない限りどんどん縮小されていくと思います。暮らしのことだけになっていく。本当は、人間はただ生きていくためだけにあるんじゃないかと、心豊かに美しいものを追求して触れて憧れて、そういうことに人間性の豊かさを感じる。ものすごく大事な分野。いつも結論的なものは何も言えませんが、経済的な不安がある中で、私は中期的な視点でも、今あるものの中でより大切なものを選別して、大事なものは深くしっかり育てて、重複しているものは整理してということは、予算の意味からも、文化芸術行政の将来のためにも必要なんじゃないかと。話が広がって申し訳ないんですが、私たちの生活の中で経済的な基盤がしっかりしていないところに文化芸術が成り立たないというのは世界的な人類の歴史を振り返ってもそんなですよ。広く話を言い過ぎるかもしれませんが、私たちの心のどこかには、今の暮らしは5年、10年先保てないんじゃないかという思いがありますね。それを隠しながらいろんな問題を考えたらいいんじゃないかなと思います。

中山副会長  
古賀委員

ありがとうございます。古賀委員ありがとうございます。

今日の会議の主題からは離れるかもしれませんが、みなさんの話を伺っていて最近自分が思っていることについて、改めて考えていたんですが、私はNPOの活動と、研究員として最近福岡市のほうでホームレスの方の演劇コミュニケーション講座に関わっているんですが、コミュニケーション能力を向上させるために演劇の力を借りるということは比較的知られていることです。子どもたちのためにするところは多いんですが、いわゆるホームレス、みんながダンボールで寝ているんじゃないかと、ニアホームレスも含むんですけど、何らかの事情でお仕事が出来なくなって、収入がなくなって、住むところがなくなってお困りになった方々が、行政に相談されたりとか。実際に路上に寝てなくても、住むところがなくなったと相談に来られた方々が入所できるセンターがあるんですね。住居を提供し、就労に繋げていくような様々な情報提供とか、もろもろのサービスの提供をしているところがあるので、そこで演劇のワークショップをさせていただいて3年になります。子どもたちと一緒にやっていて、演劇のワークショップって効果があるなと実感していたので、ホームレスの方のためにもということで、いろいろ手法を検討してやらせていただいているんですが、一部の方にはいい方向に働いて、コミュニケーションのとり方がわかったとか、自尊心をなくしていたんだけど、昔は自分も結構やれてたんだぞということを思い出して前向きになられた方もいらっしやって、いい方向に言ったなと思えることもあります。しかし、そういう方ばかりではなくて、何をやっても反応が返ってこないってこともあるんですよ。これを見てて思ったんですが、演劇って受け手の側の想像力があって初めて成り立つ、双方向のやり取りがあって成立するそういう芸術なので、受け手の側に想像力、受け止める力がある程度ないと、回路が開けないなという気がするんですよ。いろんな工夫をしてやってはいるんですが、そういう方はずぶずぶずぶと入って行って反応がないまま終わって、終わった後のヒアリングで、何がなんだかわからなかったと言われる方も多いです。それは手法がぴたりきていないので改善しなければならないところもあるかもしれませんが、3年間やりきってつくづく思うのは、大人になってからのそういった心の回路を開く部分って、いきなりぽこっと開くわけではないので、こどものときから文化とか芸術とか体験がない方に関してはこれ今から演劇やっても難しいなと本当に思っています。この部分っていうのは結局こどものときの体験に帰ってしまう。就労のための講座ですが、就職のための

面接講座ではないんですね。そこは手に職をもっていたり、資格をもっていたりすると何とかなるんですが、職についた後の職場の人間関係とか、引っ越した後のご近所さんとの人間関係とかで、ちょっとした軋轢とかちょっとしたすれ違いで人間関係をきずくことをさっと諦めて、辞めてしまうとか、もういいって引っ越してしまうとかを繰り返した結果、今に至るといっても結構多いので、人との関係の築き方、社会の中で自分がどう生きていくかという力が形成されないまま大人になられているという方がどうも多いように感じます。科学的な話じゃなくて申し訳ないんですけども、感覚としてそういう気がしていて、結局こどもの問題に帰っていくんだなと思いました。NPOを立ち上げて15年で、10年間くらいこども中心にやってきたんですが、3年位前からホームレスの方や高齢者の方々のための芸術体験にシフトしたんです。こどものことはある程度行き渡った感があったので、次の課題と思ってシフトしたんですが、やっぱり子どもに帰ってくるなど。毎日通う学校での環境も大切ですけど、学校に行っていない子どもいるわけですし、学校以外の、古賀市で言えばアート・バスとか文化協会さんがされている事業とか、たくさんのお子さんが参加することが大切ですし、もっと広げていく。難しいんですけどね。ご飯食べるのも難しいような子に芸術体験させるっていうのは非常に厳しいんですが、そこにたどり着かないと、たとえばホームレスの方、ホームレスという言い方が適切でなければ、生活困窮者というんですが、生活に困られて、税金でもって支援せざる得なくなる方たちを少しでも納税者に変えていくっていうこと、行政的にいえばそういうことともいえます。そこにも芸術文化が働ける部分があると思ってやってるんですけど、大人の方たちに働きかけるだけじゃぜんぜん足りなくて、子どもたちの環境をもっと変えていかなければならないと思い今駆られています。ああやっぱりこどもだった、と。課題が見つかってしまったのでまた仕事が増えるな、と大変なんですけど、今そういう思いを新たにしています。古賀市で取り組まれているたくさんのお子さんのこと、また子どもたちに関するご意見がたくさん出ていたので大変頼もしいなと思ったんですけど、さらに対象を細かく拡大していかないといけないなど。ざっくり学校に働きかけるだけでなく、そこから零れ落ちる子どもたち、公募型事業でも、予定以上に参加があっただけじゃなくって思ったんですけど、それだけではダメで、それに見向きもしない、情報が届かない、それどころじゃない子どもたちに、どう情報を届けていくかということが大事ななと思ってます。お話を伺いながらそういうことを感じておりました。長くなりまして申し訳ありません。

志賀委員

今のお話を中で共通したことを感じられましたので、一つ。全国女性会議に出席したときに、こられていらっしゃる方はその土地土地のリーダーさんだと思っております。女性の歴史を語るというテーマだったんですが、女性の歴史を語る上で音楽をまずと言われたんです。ピアノとソプラノ歌手の歌が入りまして、そして女性の歴史が語られました。そしてまたそこでふるさとの歌を歌われる。観客がリラックスできるように少し歌を挟みながらお話を続けていくような場だったんですが、一つ横の席に座られた私より10くらい上の方が、何でここで歌ね！私たちはそげんな余裕はなかったと！この歌は何ね！何でここで歌が出るんね！とずーとおっしゃっていたんですね。ああかわいそうな方だなと思いつつ、この方は文化にあまり接していないんじゃないかなと実感しました。大人になってもそういうまんまでいくということはとても悲しいことで、先ほどおっしゃったように、こどものころから自然とそれを身に付けさせておけば、こういう発言はなかったらいいなと思ってました。また話はごろっと変わりますが、こどもの美術展のために、資料を配りました。大きな回収袋も含めて学校に配っております。そしてたらあるところから全然対応してない学校があるよとご連絡いただいたんです。申込書を全然配ってな

いようだご連絡いただいたので、私がいなかったものですから別の方にその学校へコピーでも良いですからご連絡入れていただいてからやっと学校からも対応しますとお返事いただきました。学校によってはそういう風に対応してない、あの大きな回収袋はどこにいったんだろうと、今日早速お電話差し上げようと思っているんです。まあ間違いだったらいけませんからね。やってますよと言われるかもしれませんが、そういうこともありました。日ごろの生活の中で文化を感じられることはいっぱい、特に古賀市にはいっぱい散りばめられてありますので、こどもの将来についてはあまり心配していないというのが正直なところですが、大きくなった大人の方をさあどうしようともっともっと豊かな余生を送らせたいなという思い、特に男性の方に今回力を入れていきます。ありがとうございます。みなさん、大人からこどもまで貴重な意見ありがとうございました。その他の事項で何かありますか。

## 5 その他事項

今年の1月に亡くなられた赤星信子さんが福岡県文化功労者表彰を受けたことを報告。

## 8 閉会のことば（安部生涯学習推進課長）

第2回の審議会で、いろいろな視点からご意見をいただく中で、失礼ですが私は楽しくお話を聞かせていただきました。古賀市の文化芸術振興計画は、いろいろな視点でご意見をいただき、課の中でも検討し、関係者と十分協議しながら進めてきたと考えております。今日出たご意見の中で、市民主導の芸術文化についての話も出ましたが、優れた文化を鑑賞することの大切さの話もありました。どれも違うようで共通することもあるかなと思いますので、ぜひ皆さんのご意見を参考にさせていただければと思います。古賀委員のほうからホームレスの方へのコミュニケーション講座をされているというお話があってとても驚きました、私は個人的には古賀委員とはNPO立ち上げのときから仕事でかかわりがありました。こどもの文化芸術についていろんな事業を展開されておりました。またこどもに帰ってきたと、やはりこどものころの文化芸術体験させることが必要だというお話を聞いて、教育委員会としてもそういう機会を充実させることが大切なんだと改めて実感したところです、出来ることからやっていたらと思います。これを持ちまして平成27年度第2回古賀市文化芸術審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。